

集い・交わり・語らい・楽しむコミュニティゾーン

# 伯耆しあわせの郷だより

【発行】 伯耆しあわせの郷 ☎ 26 - 5581 <http://www.shiawasenosato.jp>  
 指定管理者 旭ビル管理株式会社



**美術に親しもう！(第2回)**  
 伯耆しあわせの郷の所蔵美術作品を紹介  
 します  
 第2回 前田寛治大賞 市民賞受賞  
 「羊のいる風景」 鍋島正一作  
 ヘルストロンコーナーにて展示中

「文化・芸術の秋・新たに教室に通いましょう」  
 記録的な猛暑が終わり、秋本番を迎えました。  
 先月には、4年ぶりに制限なしで開催した伯耆しあ  
 わせの郷まつりに、多数のお客様にご来場いただ  
 き、賑やかに開催することができました。ご来場い  
 ただきました市民の皆様、そして一生懸命準備して  
 下さった関係者の皆様にお礼申し上げます。  
 10月になり、当施設の行事も目白押しになってき  
 ました。  
 まず、創作文化教養教室の後期(10月～3月)日程  
 の講座が開講してまいります。まだ受講可能な教室  
 もございますので、お問い合わせの上、ぜひご受講  
 ください。また、9月末よりスペインに交流の為訪  
 れていた、織物教室のみなさんが帰って来られま  
 す。交流の様子なども順次ご紹介させていただきます  
 ですので、どうぞご期待ください。  
 10月7日(土)からはエスポワール展(絵画教室作  
 品展)を開催いたしますので、ぜひご来場下さい。

## 受講生募集

※申し込みは、10月1日(日)から先着順にて受け付け、定員になり次第締め切ります。  
 ※受講料は初回前納。納入された受講料は原則返金いたしません。  
 ※受講料のほかに材料費などが必要です。

教室名・講師	日時	回数	定員	受講料
カフェ風ごはん LUNCH! 「トルティーヤ他」 管理栄養士 小田 秀さん	10月21日(土) 10:00~13:00	1回	24名	600円 (要材料費)
韓国料理を作ろう! 「カムジャタン(豚肉とジャガイモの鍋)他」 調理師 西尾 春代さん	10月22日(日) 10:00~13:00	1回	25名	600円 (要材料費)
米粉ブッセ(甘酒のサツマイモクリーム) を作ろう! 講師 奥村 美樹さん	10月29日(日) 13:00~15:00	1回	14名	600円 (要材料費)

### \*\*今月の休館日\*\*

10月2日(月)、10月10日(火)、10月16日(月)、10月23日(月) 10月30日(月)

## 「しだれ桜の里」の歌を作りました。ホームページリンクよりお聞きください。

この度、「しだれ桜の里」の歌を作成しました。これは中国建設弘済会様の助成を受けた事業のひとつとして、「しだれ桜の里」をPRする歌と映像を作成し、SNSを使って広報していく事業の一環として作成したものです。小谷敏彦さんに「しだれ桜の里」の歌の作詞・作曲をお願いして、先月の伯耆しあわせの郷まつりにて、初めて披露させていただきました。PRの映像は来年度作成して皆様に披露する予定ですので、ご期待ください。

伯耆しあわせの郷まつりでの「しだれ桜の里」の歌をホームページのYouTubeのリンクで聞けるようにしていますのでぜひお聞きください  
ホームページアドレス <https://www.shiawasenosato.jp/>



### しだれ桜の里

作詞・作曲 小谷敏彦

伯耆しあわせの 里に咲く  
しだれざくらが 呼んでいる  
春のさわやかな 風にゆれながら  
やさしい笑顔 丘に憩う

みどり芽吹く山 鳥たちの

よろこびさえずり 木々にわたり  
青く澄みわたる 空に向かいて  
桜色映えて 和むころ



## 予 告

伯耆しあわせの郷絵画教室

エスポワール展開催

期間 10月7日(土)~20(金)

※10月10日(火)・16(月)休館日

※最終日は午後4時閉場

場所 伯耆しあわせの郷  
展示ホール

## 県展受賞候補・入選者発表

第67回鳥取県美術展覧会が開かれ、しあわせの郷の各教室受講者のみなさんの中から受賞候補・入選が選ばれました。おめでとうございます。

### 【受賞候補】

芦達 憲子さん(織物教室)「木綿経緯緋 雪華の舞」

細田 恵美子さん(織物教室)「木綿手拵 再会」

### 【入選】

森岡 正子さん(織物教室)「春らんまん」

穂田 誠一郎さん(写真)「境遇」

井上 英明さん(写真)「移ろい」

木田 繁数さん(写真)「視線は何処に」

中村 武さん(写真)「晩夏」

森本 裕さん(写真)「残照」

倉吉未来中心で10月26日(木)から11月3日(金・祝)まで、前後期に分けて選抜展が開かれます。

## 編集後記

秋も深まり夜空に輝く月がひと際美しく見えます。短歌や俳句でただ「月」と詠む場合は秋の季語で、月を題材にした秋の名歌や名句は多くあります。

『新古今和歌集』に収録されている左京大夫頭輔(藤原頭輔)の一首

秋風に たなびく雲の 絶え間より

もれ出づる月の 影のさやけさ

は、非常に格調高いうえにその情景を解り易く描ききつており、三代に亘る歌学の権威六条藤家の実力がうかがい知ることができると評価されています。

また、その他にも月には時間の経過を表した「十六夜月」「立待月」「居待月」「寝待(臥待)月」「更待月」などの異称もあり、古来より人々にとって月は身近な存在であったことがうかがえます。

明治6年に太陽暦の運用が始まって今年で150年を迎えました。それまでは月の満ち欠けによる太陰暦に基づいて生活を営んできました。

数百年の昔より月を愛でていた人たちが居たことに想いを馳せながら、冴えた秋の夜空を見上げてみよう。